

私の期待するトランプ像（続）

渡辺 久義

2016/11/16

約 8 か月前、3 月末に私は、「私の期待するトランプ像」というエッセーを書いた。それでここでは、同じ題に「続」をつけることにする。このエッセーの結びに私はこう書いた――

「トランプは過激発言で人を引き付けるが、新聞報道によれば、「CIA の拷問はやめる必要がない、水責めなどは生ぬるい、俺ならもっと恐ろしいのをやる」と言ったらしい。新聞はこれを真に受けて、国際法云々などと言っているが、こんな冗談なら誰でも言うだろう。これは今の CIA がやっている、吐く物がないのに吐かせる拷問ではなくて、吐く物を腹いっぱい溜め込んでいる者たちの拷問のことであろう。NWO はウソと隠し事で成り立っている政権である。

「この期待は外れるかもしれないが、私はトランプとプーチンが協力して、この世界を浄化してくれることを夢見ている。」

選挙直前から民衆に真実がわかり始め、選挙結果によって、米政府もメディアもその傲慢を思い知らされた今、アメリカが本当はどういう国なのかについて、全国民が冷静に説明を聞いた上で、選挙をやり直したとしたらどうなるだろう。いわゆるトップ“1 パーセント”を除いて、どれくらいのアメリカ人がヒラリーに投票するだろうか？

私に個人的にメールを送ってくる Dinesh O'Souza という人が、こう言っていた――

「ヒラリー・クリントンの応援をしている間、オバマは、この選挙は、彼のレガシー（残した遺産）についての国民投票となるであろうと言っていた。我々ただこう言うよりほかない――喜んでそうさせてもらいましょう！」

これほど痛快な一文はないと思って、私は書き止めておいた。この選挙結果は、オバマの二重の自信と傲慢がへし折られた瞬間だった。一つは、自分の中東での滅茶苦茶な戦争や内政に対する自信、もう一つは、クリントンが間違いなく当選するという自信。ここから、いかに「純粋な悪」（P・C・ロバーツ）の上に立っていたワシントンが、その悪を押し通そうとしていたかがわかる。

Hillary's America という映画を作って宣伝中のオスーザは、さらにこう言っている――

「少なくとも当面は、我々は、進歩党の犯罪シンジケートの最高のレベルを免れた。そして、ヒラリー・クリントン、オバマ、それに彼らの腐敗と頑迷の政党は、すべて一步退いた。」

万一、ヒラリーが当選していたら、一気に対ロシア大戦争に突入する可能性があった。我々は危機一髪でこれを免れた。ロシア現代史学者スティーヴン・コーエンも、とりあえず真っ先にトランプ大統領のなすべきことは何かと問われて、ロシアを包囲する NATO の戦力増強を止めることだと答えている。

アメリカの民衆は、自国と世界がそういう危ない状況にあることを、聞かされていなかった。これ一つだけを取っても、ヒラリーに投票することはできない。

ここでオスーザが使っている「腐敗」という言葉を、トランプも堂々と、ヒラリーの面前で使っていた。ヒラリーは、ワシントンの腐敗を、一身に体現するような女だった。これも一般大衆は知らされていなかった。クリントン夫妻は、現在、国外逃亡を計画していると言われるが、多分、本当のことであろう。大統領に落選したので国内にいられない――何という人物をアメリカ人は選ばうとしたのか！

もう一つ、ヒラリーを選んではいけない理由――それは、トランプの主張の最も強力なポイントの一つで、「盗まれた国家を自分たちの手に取り戻す」ということである。盗んだ者たちのトップは、アメリカ国籍さえもっていないと言われる。そしてヒラリーは、その者たちの腕にしっかり抱かれている。それさえアメリカの一般民衆は知らなかった。

その切実な例は、P・C・ロバーツの強調する「雇用を取り戻す」ということである。“1パーセント”と中間層以下の格差が、ますます広がるというアメリカの現実の原因は、グローバル企業が、その業務にアメリカ人を使わず、仕事を賃金の安い海外に移すことだった。これは「彼ら」と、彼らと一体の政治家に、「自国民」という意識がないことを意味する。自分たち特権階級とその他の奴隷ども、という区別しかない。ヒラリー大統領がこの傾向を強めこそすれ、解決するとは考えられない。

そもそもドナルド・トランプの基本的立場は、アメリカという乗っ取られた国家の大変革「レジーム・チェンジ」である。この点で彼は、「国家に秘密や隠し事があってはならない、私はこの国を改革するつもりだ」と言って、一週間後に暗殺されたケネディ大統領と基

本的に同じである。「彼ら」から見れば、ケネディは国賊であって、生かしてはおけなかった。同様にトランプも生かしておけないだろう。

しかし、かりにトランプが暗殺されたとしても、彼が勢いをつけた改革へのはずみは、変わることはない。向こうが国籍を持たないグローバリストであるなら、こちらもグローバルでなければ対抗できない。したがって、トランプが、プーチンという世界的に尊敬され、しかも気心のあった政治家と、協力して世界を浄化すべきだという、私の 8 か月前の見解は変わらない。